単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

1　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　23　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	1	水辺環境の整備・活用
基本施策	1	水辺環境の整備・活用	単位施策	(1)	五条川の保全・整備

主管課	環境保全課	関連課	ー	総合計画書 ページ番号	97

現状と課題	・五条川については、昭和60年3月に五条川レクリエーションゾーン整備計画、平成7年3月に五条川自然再生整備等基本計画を策定し、五条川の整備とともに地域づくり、ふるさとづくりを進めてきた。 ・これまでの計画においては、水辺環境の復元などを主なものとして景観や親水護岸整備を進めてきたが、自然生態系の保全を図り、生物多様性に配慮した川へと自然再生していくことが課題となっている。 ・今後は、これまで以上に市民・事業者との協働により力を結集することにより、五条川のさらなる魅力づくりを進めていく必要がある。

2　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	五条川自然再生整備等基本計画（第2次計画）に基づき、五条川の保全・整備に努めてきた。平成24年度から取り組んできた第3次計画を平成26年3月に策定した。
今後の取組	・平成26年3月に策定した五条川自然再生整備等基本計画の第3次計画の実現のため、市民・事業者との協働により、また、愛知県や近隣市町との広域的な連携・協力を図る。 ・浸水対策事業としての護岸等の整備を河川管理者である県に引き続き要望する。	

3　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	指標生物に基づく水質階級※	級	H21	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
	※水質階級：河川に生息する水生生物の種類と数から水質の度合いを測る方法							

4　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	五条川の保全・整備	主管課	環境保全課

評価及び理由	評価	評価理由
	○	五条川自然再生整備等基本計画（第2次計画）に基づき、五条川の保全・整備に努めてきた。平成24年度から取り組んできた第3次計画を平成26年3月に策定した。

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	指標生物に基づく水質階級	級	H21	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	五条川自然再生整備等基本計画策定事業	ー	○	ー	○	○	○	ー	3,502千円	1,392千円	4,894千円	完了	ー
	2	五条川自然再生整備等基本計画推進事業	○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	0千円	0千円	0千円	拡大	○
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

1　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　23　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	1	水辺環境の整備・活用
基本施策	1	水辺環境の整備・活用	単位施策	(2)	巾下川や矢戸川における水辺環境の保全・活用

主管課	環境保全課	関連課	ー	総合計画書ページ番号	97

現状と課題	・小牧市との市境を流れる矢戸川や巾下川の水辺環境整備を促進していく必要がある。 ・市境を流れる河川であるため、整備を進めていくためには、小牧市や河川管理者である愛知県と調整を図りながら整備していく必要がある。 ・矢戸川堤防などの清掃については岩倉団地自治会が中心となり行われているが、さらにアダプトプログラムなどを通じて、市民や市民団体などと協働により環境の美化に努めることも重要である。

2　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	岩倉団地自治会が中心となり、市民や市民団体と協働して、環境美化活動に取り組んでいる。

今後の取組	・河川管理者である愛知県や小牧市などの関係機関との調整を図りながら、水辺環境整備を推進していく。 ・五条川を中心に活動をしていただいている市民や市民団体を中心に啓発を推進し、矢戸川等への活動範囲の拡大も視野に入れながらアダプトプログラム等の新規参加を募るなど、市民との協働による環境美化活動を推進する。

3　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	矢戸川大市場橋地点のBOD※値	mg／l	H21	2.7	2.6	3.4	2.6	2.3
	※BOD:生物化学的酸素要求量。水中の有機汚濁物資を分解する							
	ために微生物が必要とする酸素の量。値が大きいほど水質汚濁は著しい。							

4　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	巾下川や矢戸川における水辺環境の保全・活用	主管課	環境保全課

	評価	評価理由
評価及び理由	○	岩倉団地自治会が中心となり、市民や市民団体と協働して、環境美化活動に取り組んでいる。

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	矢戸川大市場橋地点のBOD値	mg／l	H21	2.7	2.6	3.4	2.6	2.3

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	水質調査委託料	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	305千円	31千円	336千円	維持	○
	2	矢戸川清掃	ー	ー	ー	ー	ー	○	○	0千円	31千円	31千円	維持	ー
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　23　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	1	水辺環境の整備・活用
基本施策	1	水辺環境の整備・活用	単位施策	(3)	水辺環境のネットワーク化
主管課	環境保全課	関連課	―	総合計画書ページ番号	98
現状と課題	・貴重な自然景観を形成している五条川は、河川の連続性を生かして本市における緑の軸としての役割を担っており、今後も良好な自然環境の保全を図るとともに、桜並木などの維持や親水空間の整備などが必要である。岩倉の水辺を守る会や岩倉五条川桜並木保存会などの市民団体が中心となり、岩倉のシンボルである五条川を保全・整備する活動を展開している。 ・また、市内南部に位置する自然生態園は、自然との共生をテーマに整備され、水辺と樹林により動植物の生息域としてビオトープを形成しており、市民が身近に自然に触れ合える貴重な環境を提供している。 ・これらの貴重な環境や生物の多様性を確保するために五条川や自然生態園を軸に、街路樹や学校ビオトープなどを通じ連続性のあるものにしていくことが必要である。 ・更に五条川の生態系に配慮して水辺の生物の多様性を保全していくためにも年間を通じての水量の確保が以前からの課題となっている。				

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	岩倉の水辺を守る会や岩倉五条川桜並木保存会などの市民団体が中心となり、五条川を保全・整備する活動を展開している。岩倉ナチュラリストクラブと連携して自然生態園を適正に管理し、環境や生物の多様性の維持に努めている。
今後の取組	・五条川の水量確保や低水路の確保、自然と共生した水辺環境整備の取組について、関係機関に要望していく。 ・岩倉の水辺を守る会による五条川の生き物調査、岩倉ナチュラリストクラブによる自然生態園を中心とした生物調査を実施し、生き物リストとして記録していく。 ・環境基本計画や平成26年3月に策定した五条川自然再生整備等基本計画の第3次計画に基づき、水辺環境の保全と創造に関する事業を推進するとともに、外来生物対策を実施していく。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	指標生物に基づく水質階級	級	H21	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	水と緑のネットワーク化	主管課	環境保全課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	岩倉の水辺を守る会や岩倉五条川桜並木保存会などの市民団体が中心となり、五条川を保全・整備する活動を展開している。自然生態園を適正に管理し、環境や生物の多様性の維持に努めている。		

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	五条川自然再生整備等基本計画見直し	―	H21	―	―	策定中	策定	策定

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	五条川自然再生整備等基本計画策定事業	―	―	―	○	○	○	―	3,502千円	1,392千円	4,894千円	完了	―
	2	五条川自然再生整備等基本計画推進事業	○	―	―	―	―	―	―	0千円	0千円	0千円	拡大	○
	3													

個別施策	②	水辺の生物多様性の保全	主管課	環境保全課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	岩倉の水辺を守る会や岩倉ナチュラリストクラブと連携して、水辺の生物の多様性の保全に努めている。		

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	指標生物に基づく水質階級	級	H21	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	五条川水生生物調査	―	―	―	―	―	○	○	0千円	31千円	31千円	維持	―
	2													
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　23　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	1	水辺環境の整備・活用
基本施策	1	水辺環境の整備・活用	単位施策	（4）	市民活動への支援と広域的な連携
主管課	環境保全課	関連課	―	総合計画書ページ番号	98
現状と課題	・五条川親水事業として、岩倉の水辺を守る会に委託し、次代を担う子どもたちにふるさとの自然のすばらしさや川との付き合い方などを親子で楽しく学んでもらうために水辺まつり、親子魚つり教室などのイベントを開催している。 ・岩倉の水辺を守る会や岩倉ナチュラリストクラブによる水辺の生き物調査や水辺に親しむ市民イベントの企画・運営の充実に努めている。 ・水辺環境教育として行政と市民団体とが連携して、五条川小学校、曽野小学校において生物調査を行っている。 ・五条川に関する広域的な連携としては、流域市町のイベント情報などを収集している。				

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	五条川親水事業や水辺環境教育活動を推進するため、市民団体と協働し取り組んでいる。学校における水生生物調査のほか、市民団体によるイベントで水辺環境の大切さを学ぶ場を設け、意識啓発に努めている。流域市町と情報交換を行い、イベント情報などを発信している。
今後の取組	・岩倉の水辺を守る会による水辺まつり、親子自然探検隊、クリーンアップ五条川などの環境イベント等を通じて、市民に対する意識啓発を図る。 ・五条川自然再生整備等基本計画の第3次計画の実現に向け、岩倉の水辺を守る会への委託事業である五条川親水事業を拡大する。 ・五条川における水生生物調査や学校ビオトープなどを通じ、水辺環境や自然に対する関心を高める。 ・流域市町と情報交換を継続していく。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	（H23）	（H24）	（H25）	（H27）
指標情報	水辺まつり参加者数	人	H20	706	600	500	550	800

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	環境ボランティア・市民活動団体の育成・支援	主管課	環境保全課

	評価	評価理由
評価及び理由	○	市民主体の環境保全活動を推進するため、五条川親水事業等により岩倉の水辺を守る会との連携や支援に努めている。

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	（H23）	（H24）	（H25）	（H27）
指標情報	水辺まつり参加者数	人	H20	706	600	500	550	800

		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
事務事業	1	五条川親水事業	―	○	―	―	○	○	―	700千円	387千円	1,087千円	拡大	○
	2													
	3													

個別施策	②	水辺環境教育の充実	主管課	環境保全課

	評価	評価理由
評価及び理由	○	五条川小学校や曽野小学校における水生生物調査のほか、市民団体によるイベント（水辺まつり、環境フェア等）においても水辺環境の大切さを学ぶ場を設け、意識啓発に努めている。

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	（H23）	（H24）	（H25）	（H27）
指標情報	指標生物に基づく水質階級	級	H21	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ

		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
事務事業	1	五条川水生生物調査	―	○	―	―	―	○	○	0千円	31千円	31千円	維持	―
	2													
	3													

個別施策	③	広域連携の強化	主管課	環境保全課

評価及び理由	評価	評価理由
	○	五条川流域市町のイベント情報や河川情報などを収集し、流域市町に発信している。

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	五条川流域市町に対する河川情報の発信	回	H21	6	6	6	6	6

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	五条川流域市町連携事業	ー	○	ー	ー	ー	ー	○	0千円	46千円	46千円	維持	ー
	2													
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　28　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	2	公園・緑地
基本施策	2	公園・緑地	単位施策	(1)	公園・緑地整備

主管課	都市整備課	関連課	―	総合計画書ページ番号	101

現状と課題	・本市では、17箇所に都市公園が配置され、市民の憩いの場所を提供するとともに、災害時における避難場所としての重要な役割を担っている。しかし、市民1人当たりの面積は1.02㎡と県内平均7.51㎡（平成24年度末）を下回っており、新たな公園整備が求められているが、適正な場所での一団の用地確保や多大な事業費の確保など課題は多い。 ・既存の公園については、施設の老朽化が進み、維持補修等の必要性、施設の物的要因による事故等が懸念されている。このようなことから、利用者の安全・安心を確保するためにも適切な対応が必要であるため、計画的な改修等により施設の長寿命化を図ることが課題である。 ・既存の公園施設については、平成24年3月に公園施設長寿命化計画を策定しており、この計画に基づき計画的な改修等を実施している。

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	既存の公園施設について、公園施設長寿命化計画に基づき、改修等を実施した。中央公園においては、多目的トイレの設置と園路改修を実施した。

今後の取組	・既存の公園施設については、公園施設長寿命化計画に基づき、継続的に事業を進めていく。多目的トイレの整備についても、計画的に整備を進めていく。 ・緑の基本計画に基づき、公園・緑地の整備をするとともに公園の適正配置に努める。

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	公園等の整備・管理に満足している市民の割合	%	H20	72.3	―	―	―	75.0
	多目的トイレが整備された公園数	園	H21	11	11	12	13	13

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	公園・緑地の整備	主管課	都市整備課

	評価	評価理由
評価及び理由	△	緑の基本計画にて、新設公園の配置計画を定めている。実施に向けては、計画地域ごとの状況把握に努め、公園用地確保の可能性などの条件を整理しなければならない。

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	街区公園数	園	H22	16	16	16	16	17

事務事業	事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
		新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
1													
2													
3													

個別施策	②	既存公園の魅力化・長寿命化	主管課	都市整備課

	評価	評価理由
評価及び理由	○	既存の公園施設について、公園施設長寿命化計画に基づき、改修等を実施した。中央公園においては、多目的トイレの設置と園路改修を実施した。

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	多目的トイレが整備された公園数	園	H21	11	11	12	13	13

事務事業	事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
		新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
1	公園施設整備事業	―	○	○	○	○	―	―	42,440千円	696千円	43,136千円	維持	○
2													
3													

個別施策	③	水と緑のネットワーク化(「水辺環境の整備・活用」の再掲)	主管課	ー

評価及び理由	評価	評価理由

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1													
	2													
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　28　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	2	公園・緑地
基本施策	2	公園・緑地	単位施策	(2)	公園・緑地の維持・管理
主管課	都市整備課	関連課	―	総合計画書ページ番号	102
現状と課題	・都市公園における日常の清掃等業務については、地元区や民間へ委託している。より地域に親しまれる公園となるためにも、地域住民が積極的に清掃活動へ参加できるような取組が必要とされている。 ・地域住民が公園の清掃活動をすることにより、公園がより身近なものとなり、美化意識の向上が図られている。				

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	地元区による清掃等業務委託やアダプトプログラムによる清掃活動により適切な公園の維持管理がされている。 広報紙により公園・緑地への美化意識向上を図る啓発を行った。
今後の取組	・公園の整備後の清掃等維持管理業務の地域主導を確立するためにも、公園の整備等の際には、積極的に地域住民との協働に努める。 ・地域の公園として愛着を育むため、アダプトプログラムによる清掃活動及び地元区による清掃等を継続させていく。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	アダプトプログラムの清掃が実施されている公園数	園	H21	8	8	8	7	10

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	市民参加による公園の維持・管理	主管課	都市整備課

評価及び理由	評価	評価理由
	○	地元区による清掃等業務委託やアダプトプログラムによる清掃活動により適切な公園の維持管理がされている。

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	アダプトプログラムの清掃が実施されている公園数	園	H21	8	8	8	7	10
	地元区による清掃が実施されている公園数	園	H21	5	5	5	5	5
	花苗を配布している公園数	園	H21	7	7	7	9	7

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	公園施設管理事業	―	○	―	―	○	○	―	19,300千円	3,878千円	23,178千円	維持	○
	2	花のあるまちづくり事業	―	―	―	○	○	○	―	2,060千円	279千円	2,339千円	維持	―
	3													

個別施策	②	公園・緑地への美化意識の向上	主管課	都市整備課

評価及び理由	評価	評価理由
	○	公園でアダプトプログラムの清掃が行われるなど、美化意識の向上が図られている。広報紙により公園・緑地への美化意識向上を図る啓発を行った。

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	広報紙掲載回数	回	H21	0	0	0	1	1

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	広報紙掲載事務	―	―	―	―	―	―	○	0千円	2千円	2千円	維持	―
	2													
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　28　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	2	公園・緑地
基本施策	2	公園・緑地	単位施策	(3)	緑の保全・育成

主管課	都市整備課	関連課	―	総合計画書ページ番号	102

現状と課題	・本市は、森林などのまとまった緑地がないため、五条川沿いの桜並木や自然生態園、市街地周辺の農地のほか、社寺林や屋敷林、街路樹などが、貴重な緑地空間として市民の憩いの場となっている。緑の基本計画で位置付けている五条川、矢戸川、巾下川を緑の軸とした水と緑のネットワークを形成するためには、公共緑化事業の推進や民有地における緑の保全を図るとともに、市民と行政が一体となって点在する緑をつなげる多面的な展開が課題である。 ・公共施設の緑化は、その敷地面積に対しての緑化という点では、既に一定の緑化率を保持しているが、昨今のヒートアイランド現象の緩和に効果のある屋上緑化や壁面緑化の導入が、これからの公共施設の緑化には重要である。 ・公共施設緑化率には、都市公園及び公共施設緑地が含まれるが、近年、公共施設の新設がないため緑化面積は増加していない。なお、都市公園を新設するにあたっては用地の確保等長期的なスパンでの計画が必要となる。 ・平成24年度から愛知県森と緑づくり事業を活用し、民有地緑化を新たに整備する事業所を対象に間接補助ができる制度を創設しており、緑地面積の増加を進めるために一層の制度周知が必要である。

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	樹木医による診断・治療費の補助制度や保護樹・保護樹林の報奨金制度により、社寺境内等の樹木などの緑の保全に努めている。 緑化面積は、平成25年度に市内で大規模な民間開発が行われなかったが、小規模開発等により微増となっている。
今後の取組	・地域で親しまれ大切にされている大木や古木などの身近な緑を守るため、保護樹・保護樹林の指定制度を活用して社寺境内等の樹木や樹林、あるいは、屋敷林など民有地の緑を保全する。 ・地球温暖化防止や公共施設等の平面的な緑化面積を増やすため、公共施設における緑のカーテンの設置に努める。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	公共施設緑化率	%	H21	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0
	保護樹	本	H21	92	91	91	90	95
	保護樹林	か所	H21	9	9	9	9	10

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	既存の緑の保全	主管課	都市整備課

	評価	評価理由
評価及び理由	○	樹木医による診断・治療費の補助制度や保護樹・保護樹林の報奨金制度により、社寺境内等の樹木などの緑の保全に努めている。

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	保護樹	本	H21	92	91	91	90	95
	保護樹林	か所	H21	9	9	9	9	10

		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
事務事業	1	保護樹等指定事業	―	○	―	○	○	―	―	485千円	86千円	571千円	維持	○
	2													
	3													

個別施策	②	公共施設の緑化推進	主管課	都市整備課

	評価	評価理由
評価及び理由	○	公共施設の緑化率としては、各施設とも数値的には横ばい状態である。地球温暖化防止対策としても有効なため、公共施設における緑のカーテンの設置に努めた。

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	公共施設緑化率	%	H21	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0
	公共施設における緑のカーテン設置箇所数	か所	H21	2	14	14	16	26

		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
事務事業	1	公共緑化工事	―	○	―	○	○	―	―	945千円	58千円	1,003千円	維持	―
	2	花のあるまちづくり事業	―	○	―	○	○	○	―	2,082千円	279千円	2,361千円	維持	―
	3													

個別施策	③	住宅地の緑化促進	主管課	都市整備課

評価及び理由	評価	評価理由
	○	平成25年度は、市内で大規模な民間開発が行われなかったため、緑化推進事業補助金の実績はなかったものの、小規模開発等により緑化面積は微増となっている。

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	宅地開発等に関する指導要綱に基づく緑地面積	ha	H21	10.6	10.8	11.0	11.0	11.0

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	岩倉市緑化推進補助事業	ー	ー	ー	○	○	ー	ー	0千円	10千円	10千円	維持	ー
	2	苗木配布事業	ー	ー	ー	○	○	○	ー	160千円	28千円	188千円	維持	ー
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　23　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	3	環境保全
基本施策	1	総合的な環境政策の推進	単位施策	(1)	総合的な環境施策の推進
主管課	環境保全課	関連課	―	総合計画書ページ番号	105
現状と課題	・地球温暖化や生物多様性などをはじめとする地球規模の環境問題が深刻化しており、将来を見据えた自然環境の保全や持続可能な循環型リサイクル社会の構築など、将来に引き継ぐべき環境づくりが求められている。 ・今日の地球規模の環境問題の多くは主に日常の市民生活や事業活動によるものが原因となっているといわれており、市民・事業者・行政がそれぞれ役割を果たしながら協働によって、自然と共生し、地球環境にやさしい取組をしていくことが求められている。 ・これらの様々な環境施策を総合的かつ計画的に推進するための核をなすものとして平成24年4月1日に環境基本条例を制定し、これに基づき平成25年3月に環境基本計画を策定した。 ・また、平成21年度に地球温暖化対策実行計画を策定し一事業所として地球温暖化対策に取り組んでいるが、これらの見直しとともに、本市区域内における対策として地球温暖化対策地域推進計画を策定し、市民や事業者とともに取り組んでいく必要がある。				

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	平成24年度までの第1次地球温暖化対策実行計画の最終結果として、温室効果ガス排出量を7.2%削減と目標の4%を大きく上回る削減を達成し、公表した。平成26年3月に第2次地球温暖化対策実行計画を策定した。地球温暖化対策推進委員会を中心として、一事業所として空調の適温化等の各種節電対策、太陽光発電システムやLED照明など新エネルギー設備や省エネ機器の導入の推進などの地球温暖化防止対策に取り組んだ。
今後の取組	・平成25年3月に策定した環境基本計画に基づき各種施策の実行に取り組む。 ・平成25年度に策定した第2次地球温暖化対策実行計画に基づき、庁内の地球温暖化対策推進委員会を中心に、地球温暖化防止活動に今後も取り組む。 ・地球温暖化対策地域推進計画の策定に向けた調査・研究をしていく。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	環境基本計画策定	―	H21	―	策定中	策定	―	策定

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	環境対策指針等の策定	主管課	環境保全課
評価及び理由	評価	評価理由		
	◎	平成25年3月に環境基本計画を策定し、その推進に取り組んだ。 平成26年3月に第2次岩倉市地球温暖化対策実行計画を策定した。		

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	環境基本計画策定	―	H21	―	策定中	策定	―	策定
	第4次一般廃棄物処理計画策定	―	H21	―	―	策定	―	策定
	第2次地球温暖化対策実行計画策定	―	H21	―	―	―	策定	策定

		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
事務事業	1	第2次地球温暖化対策実行計画策定	○	―	―	―	―	―	―	0千円	928千円	928千円	完了	―
	2	環境基本計画推進	―	―	―	―	―	―	○	0千円	8千円	8千円	拡大	―
	3													

個別施策	②	環境施策の推進体制の強化	主管課	環境保全課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	地球温暖化対策推進委員会を中心として、一事業所として空調の適温化等の各種節電対策、LED照明など新エネルギー設備や省エネ機器の導入の推進などの地球温暖化防止対策に取り組んだ。		

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	温室効果ガス排出量の削減率	%	H19	0.0	5.8	7.2	―	4.0

		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
事務事業	1	地球温暖化対策推進委員会	―	―	―	―	―	―	○	0千円	174千円	174千円	維持	○
	2													
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　23　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	3	環境保全
基本施策	1	総合的な環境政策の推進	単位施策	（2）	地球温暖化防止の推進
主管課	環境保全課	関連課	―	総合計画書ページ番号	106
現状と課題	・平成13年に環境保全率先計画を策定し、一事業所として市が行う事務、事業において環境に配慮した取り組みを実践してきた。 ・平成21年に地球温暖化対策実行計画を策定し公共施設などにおける温室効果ガスの削減に取り組んできている。 ・計画期間が平成24年度までの地球温暖化対策実行計画の最終結果として、温室効果ガス排出量を7.2%削減と目標の4%を大きく上回る削減を達成した。 ・環境省が実施しているCO2削減ライトダウンキャンペーンの趣旨に賛同し、本市でも平成21年度から同イベントを実施している。 ・地球温暖化の防止を推進するために効果のある緑のカーテン事業を平成21年度から実施し、現在市内7保育園、6児童館、市庁舎、市民プラザ、自然生態園で行っているが、今後の拡大のためには各施設主導で設置・管理をしていくことが必要となる。 ・また、過度な節電等に頼るのではなく、環境にやさしいライフスタイルに改めることが重要であり、クリーンエネルギーの利用促進と環境保全意識の高揚を図ることを目的に住宅用太陽光発電補助事業を平成21年度から実施している。				

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	第1次計画の環境に配慮した取組を実施しながら、平成26年3月に第2次地球温暖化対策実行計画を策定した。緑のカーテン事業については新たに自然生態園で実施し、新規の取り組みとして緑のカーテンコンテストを実施した。その他継続して太陽光発電補助事業などに取り組んでいる。
今後の取組	・平成26年3月に策定した第2次地球温暖化対策実行計画の目標（平成29年度に温室効果ガス排出量を、平成24年度比で5%削減）の達成に向け、市の率先行動を一層推進する。 ・地球温暖化対策地域推進計画の策定に向けた調査・研究をしていく。 ・公共施設について緑のカーテンの設置箇所を増やす。 ・緑のカーテンコンテストを引き続き実施する。 ・環境に配慮したライフスタイルの普及のため、住宅用太陽光発電補助事業を引き続き実施する。 ・公共施設の太陽光発電屋根貸し事業に取り組む。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	（H23）	（H24）	（H25）	（H27）
	住宅用太陽光発電システム設置費補助件数	件	H21	21	63	72	95	60
	公共施設における緑のカーテン設置箇所数	か所	H21	2	14	14	16	26

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	環境保全率先行動の推進	主管課	環境保全課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	地球温暖化対策実行計画に基づき、環境に配慮した取組を行った。 平成26年3月に第2次地球温暖化対策実行計画を策定した。		

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	（H23）	（H24）	（H25）	（H27）
	第2次地球温暖化対策実行計画策定	―	H21	―	―	―	策定	策定

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	第2次地球温暖化対策実行計画策定	―	○	―	―	―	―	○	0千円	928千円	928千円	完了	―
	2	CO2削減ライトダウンキャンペーン	―	―	―	○	○	○	―	42千円	162千円	204千円	維持	―
	3													

個別施策	②	屋上緑化・壁面緑化の推進	主管課	環境保全課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	緑のカーテン事業については新たに自然生態園で実施し、新規の取り組みとして緑のカーテンコンテストを実施した。		

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	（H23）	（H24）	（H25）	（H27）
	公共施設における緑のカーテン設置箇所数	か所	H21	2	14	14	16	26

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	緑のカーテン事業	―	○	―	○	○	○	―	101千円	186千円	287千円	拡大	―
	2	緑のカーテンコンテスト	―	―	―	○	○	―	―	48千円	464千円	512千円	拡大	―
	3													

個別施策	③	環境にやさしいライフスタイルの促進	主管課	環境保全課

評価及び理由	評価	評価理由
	○	住宅用太陽光発電システム設置補助制度によって支援している。

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	住宅用太陽光発電システム設置費補助件数	件	H21	21	63	72	95	60

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	住宅用太陽光発電システム設置費補助金	ー	ー	○	○	○	ー	ー	6,987千円	464千円	7,451千円	拡大	○
	2													
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　23　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	3	環境保全
基本施策	1	総合的な環境政策の推進	単位施策	(3)	生物多様性の保全
主管課	環境保全課	関連課	―	総合計画書ページ番号	106
現状と課題	・身近な場所で自然に親しみ、自然の仕組みに対する理解を深める場として、多くの市民に自然環境に触れ合ってもらえるように自然生態園において各種イベントを実施している。 ・特に近年は、生物多様性の重要性が指摘されており、その保全が大きな課題となっている。外来生物の問題や生態系の変化などを把握するために、市民との協働により自然生態園をはじめ市内全域の生き物生息調査が必要となっている。 ・市民・事業者・行政が一体となって環境フェアを開催し、生物多様性をはじめとする環境問題に対して関心を持っていただけるような機会を提供しているが、さらに自然環境の保全や自然にやさしい環境づくりを推進するためには、多様な主体が参加・連携し、その必要性を学ぶ場の整備や機会の充実などが求められている。				

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	市民団体と連携して自然生態園において、生物多様性に対する関心を深めることを目的に様々なイベントを実施している。環境フェアを市民・事業者・行政の協働による実行委員会形式で運営し、環境問題に取り組んでいる。
今後の取組	・市民団体である岩倉ナチュラリストクラブと連携を図りながら、自然生態園の生態系の維持に努めていく。 ・環境基本計画や五条川自然再生整備等基本計画の第3次計画に基づき、生物多様性、外来生物問題などに対する認識を深めることを目的としたイベントの開催や、生き物生息調査等を実施する。 ・環境基本計画や五条川自然再生整備等基本計画の第3次計画に基づき、市民・事業者・行政が協働して、五条川や自然生態園を次世代を担う子どもたちの環境学習のための情報発信地として位置づけていくための施策を実施していく。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	自然生態園で生息するトンボの種類	種	H21	18	18	20	15	26
	環境フェア参加者数	人	H21	897	1,042	733	750	1,000

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	身近な生物多様性の保全	主管課	環境保全課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	子どもをはじめとした市民が身近に自然とふれあう場として、自然生態園における生物調査や環境保全などに取り組んだ。		

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	自然生態園で生息するトンボの種類	種	H21	18	18	20	15	26

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	自然生態園施設管理事業	―	○	―	○	○	○	―	2,830千円	542千円	3,372千円	維持	―
	2													
	3													

個別施策	②	環境学習の推進	主管課	環境保全課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	岩倉の水辺を守る会や岩倉ナチュラリストクラブと連携を図りながら、五条川や自然生態園で様々なイベントを開催し、環境学習の推進に努めた。		

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	自然生態園のイベント参加者数	人	H21	237	247	206	174	300

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	自然生態園施設管理事業	―	○	―	○	○	○	―	2,830千円	542千円	3,372千円	維持	○
	2													
	3													

個別施策	③	市民や事業者との協働関係の強化	主管課	環境保全課

評価及び理由	評価	評価理由
	○	環境フェアを市民・事業者・行政の協働による実行委員会形式で運営し、環境問題に取り組んでいる。

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	環境フェア参加者数	人	H21	897	1,042	733	750	1,000

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	環境フェア	ー	○	ー	○	○	○	ー	637千円	495千円	1,132千円	維持	ー
	2													
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　23　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	3	環境保全
基本施策	2	廃棄物・リサイクル	単位施策	(1)	ごみの減量化・資源化
主管課	環境保全課	関連課	―	総合計画書ページ番号	109
現状と課題	・これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済社会システムにより享受してきた豊かで便利な生活の代償として、地球規模での環境破壊や資源の枯渇、有害物質による汚染などが深刻化してきている。なかでも、人間の活動のあらゆる場面で排出される廃棄物は、環境に大きな負荷を与えている要因の一つであり、循環型社会に向けた発生・排出の抑制やリサイクルの推進などの取組の強化が必要となっている。 ※3R（スリーアール）について・・・排出抑制を推進していくためには、余分な物の購入を控え、もったいない精神で物を大切に長く使うライフスタイルへ切り替えるとともに、リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）の3Rへの関心を喚起し、ごみ減量と資源化を社会に定着させていくことが必要である。				

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	ごみの減量化・資源化のため、ごみに関する情報発信を充実させるとともに、市民団体と連携し環境フェア、クリーンチェック等を通じて意識啓発を図った。また、日曜資源回収ステーションの実施回数の増加、フラワーリサイクル事業の拡大など、ごみ減量化・資源化に関する施策を充実させている。
今後の取組	・ごみを排出する一人ひとりが、家庭、職場、地域における生活の様々な局面で、ライフスタイルの見直しや3Rを意識し、実行することが求められており、市民、事業者、市の三者協働により、第4次岩倉市一般廃棄物処理計画に掲げられたごみの減量目標の達成をめざすともに、目標達成に向けた取組を推進していく。 ・ごみや環境問題などに関する積極的な情報の提供、啓発、PR 活動などを行政区や市民団体などの協力を得て行っていくとともに、市民団体や各行政区等の自主的な活動を支援していく。 ・環境フェアにおけるリサイクル品の展示・販売については、費用対効果や実際のリサイクル品の販売状況から判断して、リサイクル品修理再生業務は廃止し、リユース広場として継続していく。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	ごみの資源化率	%	H21	28.5	26.2	26.2	25.7	31.0
	レジ袋辞退率	%	H21	89.5	90.0	89.0	88.5	90.0

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	3Rの推進と情報発信	主管課	環境保全課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	広報紙やホームページによる周知のほか、パンフレットなどの全戸配布を通じ、ごみに関する情報発信や意識啓発を行い、3Rを基本としたごみ減量化・資源化を推進した。		

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	市民1人当たりのごみ排出量	g/日	H21	503	494	486	483	450
	市民1人当たりの資源収集量	g/日	H21	200	175	173	167	200
	親子ごみ探検教室参加人数	人	H22	22	28	14	9	30

		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
事務事業	1	ごみと資源の出し方、クリーンチェックリーフレット	―	―	―	―	○	―	―	438千円	155千円	593千円	維持	―
	2	分別収集、古紙と古着の日	―	―	―	○	○	○	―	10,381千円	12,914千円	23,295千円	維持	―
	3	親子ごみ探検教室	―	○	―	―	―	―	○	0千円	46千円	46千円	維持	―

個別施策	②	事業所におけるごみの減量化・資源化	主管課	環境保全課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	事業系一般廃棄物の処理状況について、大規模事業所には毎年減量計画書の提出を求めるとともに廃棄物管理責任者を選任してもらい、事業系廃棄物の減量及び適正な処理に関する業務を担当してもらっている。その他の事業所についても、必要に応じ戸別訪問を実施し、減量及び適正処理を求めている。レジ袋辞退率については、当初掲げた目標（80%以上）を達成している。		

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	事業系一般廃棄物の排出量（許可業者収集量）	t	H22	1,400	1,514	1,270	1,291	―
	レジ袋辞退率	%	H21	89.5	90.0	89.0	88.5	90.0

		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
事務事業	1	減量計画書、廃棄物管理責任者選任届出書	―	―	―	―	―	―	○	0千円	19千円	19千円	維持	―
	2	レジ袋辞退の推進	―	―	―	―	―	―	○	0千円	19千円	19千円	拡大	―
	3													

個別施策	③	リサイクル拠点の充実	主管課	環境保全課

評価及び理由	評価	評価理由
	○	市民の利便性を図り、かつ資源の有効利用を図るため、分別収集に出すことができない人を対象として日曜資源回収ステーションを実施した。また、平成25年度は、日曜資源回収ステーションの回数を月4回に増やして市民の利便性を向上した。

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	リサイクル品修理再生数	個	H22	33	38	43	18	－
	日曜資源回収ステーション利用者数	人	H23	378	378	1,340	3,458	500

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	リサイクル品修理再生業務	ー	ー	ー	○	○	ー	ー	34千円	21千円	55千円	廃止	ー
	2	日曜資源回収ステーション	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	340千円	138千円	478千円	維持	ー
	3													

個別施策	④	生ごみ等堆肥化の推進	主管課	環境保全課

評価及び理由	評価	評価理由
	○	市民団体と協働で、稲荷町のビニールハウスでぼかしを用いた生ごみ堆肥化の事業である「フラワーリサイクル事業」を実施しているが、平成25年度は新たにモニターを募集し、事業を拡大した。また、生ごみ処理機の購入補助制度により、生ごみの減量化を支援した。

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	生ごみ処理機の補助件数	台	H22	7	3	3	2	20
	生ごみ堆肥化モニター人数	人	H22	ー	ー	22	47	70

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	生ごみ処理機購入助成事業	ー	○	ー	○	○	ー	ー	40千円	15千円	55千円	維持	ー
	2	生ごみ堆肥化フラワーリサイクル事業	ー	ー	○	ー	○	○	ー	66千円	93千円	159千円	拡大	○
	3													

個別施策	⑤	市民団体との連携・支援	主管課	環境保全課

評価及び理由	評価	評価理由
	○	ごみ減量化・資源化を図るため、3R活動に取り組む市民団体と連携し、市民主体の自主的活動を支援した。

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	環境フェアに参加している団体数	団体	H22	24	25	25	25	25
	クリーンチェックいわくらに参加している市民団体数	団体	H22	229	209	193	196	250

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	環境フェア	ー	ー	ー	○	○	○	ー	637千円	495千円	1,132千円	維持	ー
	2	クリーンチェックいわくら	ー	ー	ー	ー	○	○	ー	224千円	495千円	719千円	維持	ー
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　23　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	3	環境保全
基本施策	2	廃棄物・リサイクル	単位施策	(2)	廃棄物の適正処理
主管課	環境保全課	関連課	―	総合計画書ページ番号	110
現状と課題	・廃棄物の不法投棄については、一つの不法投棄が新たな不法投棄を呼ぶことになるため、未然防止対策や早期発見・回収など、迅速な対応が求められている。 ・一般廃棄物の処理について、ごみ処理は小牧岩倉衛生組合で、また、し尿処理は3市2町（犬山市、江南市、岩倉市、大口町、扶桑町）による愛北広域事務組合でそれぞれ共同処理しており、両組合とも施設の計画的な更新・整備を含めた適正な管理運営が求められている。				

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	平成24年度に続き、新たに移動式不法投棄防犯カメラを2台購入した。 不法投棄重点対策地域や地元からの要望のあった場所に移動式不法投棄防犯カメラを設置することにより、不法投棄の抑制に努めた。また、小牧岩倉衛生組合の施設更新は、平成27年度供用開始を目標に進められている。
今後の取組	・廃棄物の不法投棄を未然防止するために、警察や県等の関係機関や地域との連携を密にし、警告看板、不法投棄防犯カメラ、パトロール等により投棄者に対し未然に防止させることを図るとともに、不法投棄がなされた場合は早期の発見及び回収を実施する。 ・小牧岩倉衛生組合ごみ処理施設の適正な管理運営及び計画的な施設の更新・整備を行い、施設周辺の環境保全対策を充実させる。また、ごみ処理費用負担の適正化について調査・検討する。 ・愛北広域事務組合し尿処理施設の適正な管理運営及び計画的な施設の更新・整備を行い、し尿処理施設からの処理水の適正処理を行っていく。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	不法投棄件数	件	H21	28	18	22	16	23

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	廃棄物不法投棄対策	主管課	環境保全課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	平成24年度に続き、新たに移動式不法投棄防犯カメラを2台購入した。 不法投棄重点対策地域や地元からの要望のあった場所に移動式不法投棄防犯カメラを設置することにより、不法投棄の抑制に努めた。		

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	不法投棄件数	件	H21	28	18	22	16	23

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	不法投棄回収業務	―	―	―	―	○	―	―	31千円	1,056千円	1,087千円	維持	―
	2	不法投棄防犯カメラ購入事業	―	―	―	―	○	―	―	819千円	116千円	935千円	維持	―
	3													

個別施策	②	ごみ処理施設の整備	主管課	環境保全課
評価及び理由	評価	評価理由		
	◎	小牧岩倉衛生組合ごみ処理施設の施設更新工事は、平成23年度より着手しているが、平成27年度供用開始を目標に進められている。		

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	小牧岩倉衛生組合環境センター炉の更新	-	H22	―	着手	工事中	工事中	更新

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	小牧岩倉衛生組合運営費負担金	―	○	―	○	○	―	―	226,646千円	155千円	226,801千円	維持	―
	2	小牧岩倉衛生組合建設費負担金	―	○	―	○	○	―	―	409,565千円	155千円	409,720千円	維持	○
	3													

個別施策	③	し尿処理施設の整備	主管課	環境保全課

評価及び理由	評価	評価理由
	◎	し尿処理施設の適切な管理運営が行われている。

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	し尿・浄化槽汚泥搬入量	kl／年	H21	10,903	10,259	10,163	10,145	9,400

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	愛北広域事務組合し尿処理場運営費等負担金	ー	○	ー	○	○	ー	ー	47,741千円	278千円	48,019千円	維持	ー
	2													
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　23　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	3	環境保全
基本施策	3	生活環境の向上	単位施策	(1)	公害対策の充実
主管課	環境保全課	関連課	―	総合計画書ページ番号	113
現状と課題	・日常生活における自動車騒音、振動、生活排水における水質汚濁、悪臭、近隣騒音の苦情等が多くあり、現地確認を行い対応しているが、さらなる速やかな実態把握や個別指導による解決が求められている。 ・市内における環境汚染や公害の実態監視は、主要県道2か所における道路交通の騒音及び振動の測定調査の実施、五条川、矢戸川や主要水路など9か所の水質調査の実施、航空機騒音については、岩倉東小学校において定期的に測定を実施している。 ・事業所等から発生する公害による苦情については現地確認を行い、事業者自ら環境に配慮するよう指導を行っている。 ・平成24年度より自動車騒音常時監視の事務が県から権限委譲されたことに伴い、測定・評価委託業務を実施している。 ・悪臭対策として、従来の物質濃度規制に代わり平成25年4月から臭気指数規制を導入した。				

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	苦情については現地確認を行い、速やかに対応している。自動車騒音・振動、河川水質調査、航空機騒音測定などを毎年実施している。
今後の取組	・環境にやさしい生活や活動を促すための啓発・学習の取組を充実することにより、環境意識の高揚及び生活モラルの向上を図り、生活型公害の未然防止に努める。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	公害苦情処理件数	件	H21	98	92	108	89	70
	五条川待合橋地点のBOD値	mg／l	H21	2.5	1.8	3.6	3.1	2.5

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	生活型公害の防止	主管課	環境保全課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	苦情に対し現地確認を行い、速やかに対応している。公害の防止のため、広報紙やホームページなどで啓発を実施している。		

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	公害苦情処理件数（生活型）	件	H21	49	35	22	28	35

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	公害苦情処理（生活型）	―	―	―	―	―	―	○	0千円	294千円	294千円	維持	○
	2													
	3													

個別施策	②	産業型公害の防止	主管課	環境保全課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	苦情に対し現地確認を行い、速やかに対応している。公害防止のため、広報紙やホームページなどで啓発を実施している。		

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	公害苦情処理件数（産業型）	件	H21	19	24	34	23	14

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	公害苦情処理（産業型）	―	―	―	―	―	―	○	0千円	294千円	294千円	維持	―
	2													
	3													

個別施策	③	総合的な公害対策	主管課	環境保全課

評価及び理由	評価	評価理由
	○	五条川待合橋地点のBOD値について、平成15年度以降徐々に改善傾向が見られていたが、平成25年度については前年よりは低いものの基準値に比べやや高い数値となっている。 ※BOD：生物化学的酸素要求量。水中の有機汚濁物質を分解するために微生物が必要とする酸素の量。値が大きいほど水質汚濁は著しい。

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	五条川待合橋地点のBOD値	mg／l	H21	2.5	1.8	3.6	3.1	2.5
	道路騒音・振動測定	―	H22	基準値内	基準値内	基準値内	基準値内	基準値内
	航空機騒音測定	―	H22	基準値内	基準値内	基準値内	基準値内	基準値内

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	水質調査・流量調査委託料	―	○	―	―	○	―	―	371千円	46千円	417千円	維持	―
	2	自動車騒音・振動測定業務	―	―	―	―	○	―	―	567千円	248千円	815千円	維持	―
	3	航空機騒音測定業務	―	―	―	―	―	―	○	0千円	46千円	46千円	維持	―

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　23　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	3	環境保全
基本施策	3	生活環境の向上	単位施策	(2)	生活環境の保全
主管課	環境保全課	関連課	―	総合計画書ページ番号	114
現状と課題	・アダプトプログラムやクリーンチェックいわくらなどの環境美化活動には、多くの市民・事業者・地域等が参加し、清潔で美しいまちづくりは、市民、地域間に定着している。今後もこうした活動により多くの市民等の参加を得ながら、良好な生活環境の推進を図る必要がある。 ・雑草が生い茂ったまま放置された空き地等は、害虫の発生や火災、不法投棄などを招く恐れがあるため、こうした土地の所有者等に対しては、適正な管理を指導する必要がある。				

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	アダプトプログラムやクリーンチェックの実施により、市民参加による環境美化に努めている。 岩倉の水辺を守る会と協働して、犬の散歩者へのアンケートを実施し、飼い主への意思啓発を図った。 苦情のあった空き地の現地確認をし、所有者等に対する指導を実施している。
今後の取組	・アダプトプログラムの日などを通じて、より多くの里親を募集するためのPR活動を実施する。 ・地域や事業所などにもアダプトプログラムやクリーンチェックの参加を呼びかける。 ・空き地の実態把握及び所有者等に対する指導を徹底する。 ・岩倉の水辺を守る会と協働して、犬の散歩者へのアンケートの実施やマナー講座等を開催することにより、飼い主への意識啓発を図る。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	アダプトプログラム里親登録者数	人	H21	2,217	2,235	2,245	2,298	2,700
	クリーンチェックいわくら参加者数	人	H21	8,366	7,521	7,302	7,455	8,400

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	市民参加による環境美化	主管課	環境保全課

	評価	評価理由
評価及び理由	○	アダプトプログラムやクリーンチェックの実施により、市民参加による環境美化に努めている。 岩倉の水辺を守る会と協働して、犬の散歩者へのアンケートを実施し、飼い主への意思啓発を図った。

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	アダプトプログラム里親登録者数	人	H21	2,217	2,235	2,245	2,298	2,700
	クリーンチェックいわくら参加者数	人	H21	8,366	7,521	7,302	7,455	8,400

		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
事務事業	1	アダプトプログラム事業	―	○	―	○	○	○	―	212千円	178千円	390千円	維持	○
	2	クリーンチェックいわくら	―	○	―	―	○	○	―	224千円	495千円	719千円	維持	―
	3													

個別施策	②	空き地の適正管理	主管課	環境保全課

	評価	評価理由
評価及び理由	○	苦情のあった空き地の現地確認をし、所有者等に対する指導を実施している。

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	公害苦情処理件数（空き地）	件	H21	30	33	52	38	21

		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
事務事業	1	公害苦情処理（空き地）	―	―	―	―	―	―	○	0千円	402千円	402千円	維持	―
	2													
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

1　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　23　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	3	環境保全
基本施策	3	生活環境の向上	単位施策	(3)	斎場の整備

主管課	環境保全課	関連課	―	総合計画書ページ番号	114
現状と課題	・斎場については、愛北広域事務組合で業務を行っており、施設の計画的な整備や周辺環境も含めた適切な管理運営が求められている。				

2　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	愛北広域事務組合の構成市として、斎場の適正な管理運営に努めている。 施設修繕や火葬炉新設に係る費用負担のため、使用料の改正に取り組んだ。
今後の取組	・愛北広域事務組合の構成市として、火葬需要に応じた計画的な整備・維持管理に努めるとともに、効率的・効果的な事業運営に努める。 平成26年4月1日から使用料の改正を行う。	

3　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報								

4　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	斎場の整備	主管課	環境保全課

	評価	評価理由
評価及び理由	○	愛北広域事務組合の構成市として、斎場の適正な管理運営に努めている。 施設修繕や火葬炉新設に係る費用負担のため、使用料の改正に取り組んだ。

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報								

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	愛北広域事務組合火葬事業運営費負担金	―	○	―	○	○	―	―	27,533千円	93千円	27,626千円	維持	○
	2													
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　25　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	4	防災・防犯
基本施策	1	防災・浸水対策	単位施策	(1)	防災体制の充実
主管課	危機管理課	関連課	―	総合計画書ページ番号	116
現状と課題	・近年、南海トラフ巨大地震などの大規模地震の発生が懸念されるとともに、台風や異常気象による集中豪雨等の自然災害も増加している。こうした中、市民に対し、いち早く正確な災害情報を配信することが重要であり、市民意向調査においても、防災・浸水対策は最も重要度の高い施策に挙げられていることから、市民が安全で安心して暮らせる災害に強い地域社会の構築が求められている。				

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	災害情報の迅速な伝達のため、同報系防災行政無線を整備するとともに、これまでの「防災ほっとメール」に替わり、平成26年2月1日から配信を希望する情報が選択できる「ほっと情報メール」に機能を移行した。自主防災組織とボランティア団体等の連携強化を図り、地震防災講習会の開催など様々な取組をした。大規模災害等に対応する市の危機管理体制を推進する部署として、平成26年4月から危機管理課を新設した。
今後の取組	・市民に対し、同報系防災行政無線の活用に対する理解を深めるため、自主防災組織等を通じて周知を図っていく。 ・災害発生時に正しい情報を迅速に市民に知らせるため、ほっと情報メールを周知し登録者数を増やす。 ・自主防災組織等の訓練、研修を継続実施し、自助・共助の取組の充実を図る。 ・大規模災害に対応するための市の業務継続計画（BCP）の策定に取り組む。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	防災ほっとメール登録者数	人	H21	1,240	2,215	2,233	2,233	2,400

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	防災危機管理体制の充実	主管課	危機管理課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	防災体制を強化するため、自主防災会組織、ボランティア団体等での訓練を実施した。職員の危機意識の高揚及び連携の強化を図るため、定期的な訓練や研修に加え、新たな取組として小学校区単位での地域合同防災訓練、避難所運営訓練を実施し、危機管理体制の充実に努めた。また、大規模災害等に対応する市の危機管理体制を推進する部署として、平成26年4月から危機管理課を新設した。		

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	総合防災訓練参加者数	人	H22	1,630	1,239	999	中止	1,700

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	総合防災訓練	―	○	―	―	○	○	―	230千円	464千円	694千円	維持	○
	2													
	3													

個別施策	②	防災情報通信体制の充実	主管課	危機管理課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	災害情報の迅速な伝達のため、同報系防災行政無線を整備し、併せてメール配信システム「ほっと情報メール」を構築した。同報系防災行政無線及び「ほっと情報メール」により市民に災害情報等をより迅速に伝えることが可能になった。		

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	防災ほっとメール登録者数	人	H21	1,240	2,215	2,233	2,233	2,400

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	防災ほっとメール配信事業	―	○	―	○	○	―	―	567千円	4千円	571千円	廃止	―
	2	防災行政無線整備事業	―	―	―	○	○	―	―	468千円	6千円	474千円	維持	―
	3	同報系防災行政無線整備事業	―	○	○	○	○	―	―	128,140千円	377千円	128,517千円	完了	

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１ 単位施策の情報

【評価日】 H26 年 4 月 25 日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	4	防災・防犯
基本施策	1	防災・浸水対策	単位施策	(2)	地域の防災力の強化

主管課	危機管理課	関連課	―	総合計画書ページ番号	117

現状と課題	・地域における自助・共助の向上による総合的な防災力の強化を図るため、地域防災の中核的役割を担う消防団や自主防災会、防災ボランティアなどの充実強化が必要であり、災害時における自主防災会等への情報配信や伝達システムの構築が求められる中、自主防災会間の連携強化を進め災害時に対応できる体制をとっていくことが重要である。

２ 単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	日頃から市民の防災意識を高めるために、広報紙やホームページ等で啓発するとともに、防災訓練や地震防災講習会等を実施した。各自主防災会の強化を図るため、自主的な訓練の支援、機材整備の支援をした。防災ボランティアや各ボランティア団体と災害時に対応できるよう、防災訓練への参加などにより、連携強化を図った。各自主防災会が連携・協力を行っていくため、各小学校区単位での地域合同防災訓練も実施した。
今後の取組	・各自主防災会相互の協力体制をとり、災害時に備えることが重要なため、自主防災会に日頃の備えの充実や、共助の重要性について働きかけていく。 ・自主防災会の強化を図るため、啓発活動や講座等の開催、自主的な訓練の支援や資機材整備の支援に努めていく。	

３ 単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	自主防災会防災訓練への参加者数	人	H21	2,269	1,699	1,709	1,890	2,500
	地震に備えて家具などの転倒防止器具を取り付けている市民の割合	%	H22	41.3	―	―	―	43.0

４ 各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	防災意識の高揚	主管課	危機管理課

	評価	評価理由
評価及び理由	○	日頃から市民の防災意識を高めるために、広報紙やホームページ等で啓発するとともに、防災訓練や地震防災講習会等を実施した。また、各自主防災会が連携・協力を行っていくため、各小学校区単位での地域合同防災訓練も実施した。

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	自主防災会防災訓練への参加者数	人	H21	2,269	1,699	1,709	1,890	2,500
	自主防災会防災訓練実施数	回	H22	25	25	24	26	25
	広報紙掲載数	回	H22	5	5	2	3	5

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	自主防災会訓練支援	―	○	―	―	―	○	○	0千円	484千円	484千円	維持	○
	2	広報掲載事務	―	―	―	―	―	―	○	0千円	10千円	10千円	維持	―
	3													

個別施策	②	自主防災組織の充実	主管課	危機管理課

	評価	評価理由
評価及び理由	○	各自主防災会の強化を図るため、自主的な訓練及び機材整備の支援をした。

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	自主防災会防災訓練実施数	回	H22	25	25	24	26	25

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	防災対策用備品等整備補助事業	―	―	―	―	○	○	―	234千円	39千円	273千円	維持	―
	2													
	3													

個別施策	③	ボランティアとの連携強化	主管課	危機管理課

評価及び理由	評価	評価理由
	○	防災ボランティアや各ボランティア団体と災害時に対応できるよう、自主防災会の防災訓練等への参加などにより、連携強化を図った。

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	防災ボランティアの会会員数	人	H22	12	19	14	14	30

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	防災ボランティア事務事業	ー	ー	ー	ー	ー	○	○	0千円	39千円	39千円	維持	ー
	2													
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１ 単位施策の情報

【評価日】 H26 年 4 月 25 日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	4	防災・防犯
基本施策	1	防災・浸水対策	単位施策	(3)	防災施設や設備等の整備・充実
主管課	危機管理課	関連課	―	総合計画書ページ番号	117
現状と課題	・平成25年度に同報系防災行政無線を整備し、市内20箇所に屋外拡声子局を設置した。これにより、市民に対して、災害時に迅速な情報伝達ができるようになった。 ・平成25年5月内閣府から南海トラフ巨大地震被害想定（最終報告）が公表されている。避難所資機材について、計画的に整備を進めていく必要がある。				

２ 単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	災害用資機材の整備に努めた。西部保育園の耐震工事と第二児童館の耐震工事の設計を実施した。
今後の取組	・災害発生時の被害を最小限にするため、災害用資機材を計画的に整備していく。 ・公共施設や住宅の耐震化を推進し、災害時における避難場所や防災活動拠点施設等の充実強化を図る。	

３ 単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	公共施設耐震化率	%	H21	40.9	71.4	90.3	93.3	100.0

４ 各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	防災施設や設備等の整備・充実	主管課	危機管理課

	評価	評価理由
評価及び理由	○	災害用資機材の整備に努めた。西部保育園の耐震工事及び第二児童館の耐震工事の設計を実施した。

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	公共施設耐震化率	%	H21	40.9	71.4	90.3	93.3	100.0

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	避難所資機材整備事業	―	○	○	○	○	―	―	1,095千円	19千円	1,114千円	維持	○
	2	保育園等耐震化事業	―	○	○	○	―	―	―	17,868千円	58千円	17,926千円	維持	―
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

1　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　14　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	4	防災・防犯
基本施策	1	防災・浸水対策	単位施策	(4)	浸水対策の充実

主管課	上下水道課	関連課	ー	総合計画書ページ番号	118

現状と課題	・浸水対策に関しては、特定都市河川浸水被害対策法第4条による新川流域整備計画を上位計画とする岩倉市下水道（雨水）整備計画に基づき事業の推進を行っている。既に設置している下稲地下貯留池、岩倉南小学校地下貯留施設に加えて、平成22・23年度に岩倉北小学校地下貯留施設を新設した。平成24年度には鈴井門前用排水路改修工事により107.3mのボックスカルバートの布設を行い、雨水の排水処理能力の向上を図った。平成25年度も引き続き、当該排水路について上流部の工事を行っている。また、平成23年度から社会資本整備総合交付金を受け、効果促進事業として雨水貯留施設等設置費補助金を創設し、一般家庭での雨水貯留を促進し、浸水対策の一助となっている。その他にも、浸水対策事業への市民の理解と防災への意識の啓発を目的として、ハザードマップを市民に配布し啓発活動を行っている。 ・浸水対策の効果的な事業推進を行う上で、国からのより重点的な支援を得るために、より有利な財源を確保し浸水対策事業の拡充を図る必要がある。

2　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	平成24・25年度で鈴井門前用排水路の工事を行った。また、浸水対策の効果的な事業推進を行う上で、国からのより重点的な支援を得るために、新たに社会資本総合整備計画を作成し、社会資本整備総合交付金による事業から防災・安全交付金による事業に変更し、より有利な財源確保に努めた。
今後の取組	・平成26年度は、平成24・25年度に工事を行った鈴井門前用排水路の上流部の工事を行う計画をしている。 ・市内全域の浸水被害状況の緩和を図るために、効果的に浸水を緩和できる箇所に貯留施設の設置を行い、かつ用排水路の改修を進めていくことで、効率的に事業推進を図っていく。 ・雨水貯留施設等設置費補助金については、制度開始から3年経過しているが浄化槽利用の実績がないため、PRを広報等で継続して行い、下水の指定工事店にも十分に周知することで、下水道の切替工事の際に、浄化槽埋め殺しではなく、浄化槽転用を市民の方に検討していただく機会を作る。特に、マンション・アパートの所有者に対して積極的にPRし、より効果的な浸水緩和を図っていく。	

3　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	下水道（雨水）整備計画に基づく雨水貯留施設整備進捗率	%	H21	12.4	20.3	20.3	20.3	20.3

4　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	浸水対策の充実	主管課	上下水道課

	評価	評価理由
評価及び理由	○	平成24・25年度で鈴井門前用排水路の工事を行った。また、浸水対策の効果的な事業推進を行う上で、国からのより重点的な支援を得るために、新たに社会資本総合整備計画を作成し、社会資本整備総合交付金による事業から防災・安全交付金による事業に変更し、より有利な財源確保に努めた。

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	下水道（雨水）整備計画に基づく雨水貯留施設整備進捗率	%	H21	12.4	20.3	20.3	20.3	20.3

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	用排水路改修事業	ー	ー	○	○	○	ー	ー	52,876千円	1,160千円	54,036千円	維持	○
	2	雨水貯留施設等設置補助事業	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	345千円	54千円	399千円	維持	ー
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　14　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	4	防災・防犯
基本施策	2	消防・救急	単位施策	(1)	消防体制の充実
主管課	消防本部	関連課	―	総合計画書ページ番号	120
現状と課題	・東日本大震災を契機に消防・救急体制の充実、強化は市民の安全、安心に対して最も期待されるところである。 ・地域の防災活動の要である消防団の強化を図るために施設、装備の充実はもちろんのこと、大災害時にも迅速で的確な対応ができるよう、消防職員、消防団員ともに一層の知識・技術の習得、また教育訓練に努めていかなければならない。				

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	消防車両は、更新計画のとおり化学車の更新を行った。消防通信指令事務共同運用に係る事業については、計画通り推移している。また、東日本大震災を踏まえ「大規模災害時における岩倉市消防団活動マニュアル」を作成した。「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の公布を機に、一層消防団の活動支援に係る事業を強化していく必要がある。
今後の取組	・大規模災害時に、消防団の持つ組織力や技術力を最大限に活用し、被害を最小限にとどめるため、作成した「大規模災害時における岩倉市消防団活動マニュアル」を活用して教育訓練を進めるとともに、施設、装備の充実を図り大規模災害時における消防防災体制の強化を確実に進めていく。 ・平成28年度運用開始予定である消防通信指令事務共同運用に向けて、着実に準備を進めていく。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	消防水利充足率	%	H21	81.0	81.7	81.7	81.7	85.0

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	消防力の充実・強化	主管課	消防本部
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	消防車両は、更新計画のとおり化学車の更新を行った。消防水利については設置方針等改めて協議、検討する必要がある。		

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	消防水利充足率	%	H21	81.0	81.7	81.7	81.7	85.0
	車両更新計画の達成率	%	H22	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
事務事業	1	消防自動車更新事業	―	―	―	○	○	―	―	42,530千円	418千円	42,948千円	維持	―
	2	消火栓設置工事	○	―	―	○	―	―	―	0千円	0千円	0千円	維持	―
	3												維持	―

個別施策	②	消防の広域化	主管課	消防本部
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	平成28年度より運用予定である消防通信指令事務共同運用に係る事業について、計画通り推移している。		

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	消防通信指令業務の共同運用進捗率	%	H22	―	20.0	40.0	60.0	100.0

		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
事務事業	1	消防指令センター共同運用事業	―	―	○	○	○	―	―	4,147千円	743千円	4,890千円	維持	○
	2													
	3													

個別施策	③	職員の資質向上	主管課	消防本部

評価及び理由	評価	評価理由
	○	継続して救急・救助資格者を養成することができた。他の専門課程の受講も視野に入れ、総合的な人材育成に努める必要がある。

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	救急・救助課程修了者数	人	H22	24	25	24	23	29
	消防自動車機関員数	人	H22	28	34	35	42	48

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	救急科及び救助科派遣	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	467千円	2,666千円	3,133千円	維持	ー
	2													
	3													

個別施策	④	消防団の活動支援	主管課	消防本部

評価及び理由	評価	評価理由
	○	初めて外部講師による安全管理に係るセミナーを開催した。また、東日本大震災を踏まえ「大規模災害時における岩倉市消防団活動マニュアル」を作成した。今後、これを活用した訓練ができるよう一層、支援に努めていく必要がある。

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	教養研修会実施回数	回	H22	0	1	1	1	3

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	教養研修	ー	ー	○	ー	○	ー	ー	105千円	27千円	132千円	拡大	ー
	2	装備整備事業	○	ー	○	ー	ー	ー	ー	0千円	0千円	0千円	拡大	ー
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　14　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	4	防災・防犯
基本施策	2	消防・救急	単位施策	(2)	救急体制の充実
主管課	消防本部	関連課	―	総合計画書ページ番号	121
現状と課題	・市内に総合病院がなく大半を市外の病院に搬送することとなり、救急隊の責任下で傷病者を管理する時間が長くなるため、救急隊員の更なる資質向上が求められる。 ・バイスタンダーCPR（緊急時に要救護者に対し市民が救急隊到着前に心肺蘇生措置を行う行為）は救命率向上に関与するため、今後も普通救命講習会等により、一層の強化を図ることが必要である。 ・救急車の適正利用について、引続き啓発していく必要がある。				

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	普通救命講習会参加のPR活動を積極的に行い、受講者が増加した。挿管や薬剤救命士の養成を行い、救急隊員の資質向上に努めた。
今後の取組	・平成26年度は挿管救急救命士（1名）、薬剤救急救命士（1名）を養成する予定である。 ・資格取得はもとより、救急医療の知識向上のため、学会等へ積極的に参加をするとともに署内訓練や勉強会により、救急隊員の資質向上に努める。 ・今後も、普通救命講習参加へのPR活動をイベント等を通じて積極的に行う。 ・長年の課題でもあるが、引続き救急車の適正利用について啓発活動を行う。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	応急手当講習参加者数	人	H21	1,198	1,578	1,521	1,094	1,440
	普通救命講習参加者数	人	H21	214	129	371	424	240

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	救急サービスの高度化	主管課	消防本部

	評価	評価理由
評価及び理由	○	救急搬送情報システムの活用により医療機関の受入れ体制は整備されているが、大半の出動が市外搬送に依存している。市内の医療機関を含め、適切な医療機関への搬送を心がけ、傷病者の安全を守りつつ、時間短縮を図る必要がある。適正利用のための啓発は、地区の防災訓練や市民庁舎開放を通じて継続していく。

		単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	覚知から医療機関に到着した時間	分	H21	27	28	28	30	27
	救急車の適正利用啓発の広報紙掲載	回	H21	3	3	4	2	3

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	救急搬送情報システム	―	―	―	―	○	―	―	84千円	70千円	154千円	維持	―
	2	救急車の適正利用啓発事業	―	―	―	―	―	―	○	0千円	29千円	29千円	維持	―
	3													

個別施策	②	専門的人材の養成	主管課	消防本部

	評価	評価理由
評価及び理由	○	平成25年度に救急救命士（1名）、挿管救急救命士（1名）、薬剤救急救命士（1名）を養成した。病院搬送の間、質の高い管理を継続していく上でも、救命士の育成は必須である。多種多様な事故での処置を行うことから、外傷講習等の資格取得も必要である。

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	外傷講習資格取得者人数	人	H22	2	2	2	2	9
	救急救命士の人数	人	H22	7	8	9	8	9

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	挿管・薬剤救命士の養成	―	―	―	―	○	―	―	610千円	61千円	671千円	維持	―
	2	全国救急隊シンポジウムへの参加	―	―	―	―	○	―	―	100千円	62千円	162千円	拡大	―
	3													

個別施策	③	救命知識・技術の普及・啓発	主管課	消防本部

評価及び理由	評価	評価理由
	○	普通救命講習会は、庁舎市民開放等でPR活動を積極的に行ったため参加者が増加した。それに伴いバイスタンダーCPRの実施率も増加した。今後も継続してPR活動を行い、応急手当講習や普通救命講習の参加者数の増加に繋げる。

指標情報		単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	応急手当講習参加者数	人	H21	1,198	1,578	1,521	1,094	1,440
	普通救命講習参加者数	人	H21	214	129	371	424	240
	バイスタンダーCPRの実施率	%	H21	33.9	53.4	46.2	54.8	70.0

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	応急手当講習会	ー	○	ー	ー	ー	ー	○	11千円	215千円	226千円	拡大	ー
	2	普通救命講習会	ー	○	ー	ー	ー	ー	○	142千円	348千円	490千円	拡大	○
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　14　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	4	防災・防犯
基本施策	2	消防・救急	単位施策	(3)	火災予防の充実

主管課	消防本部	関連課	ー	総合計画書ページ番号	121

現状と課題	・住宅用火災警報器については設置率が向上している。設置していたことによる奏功事例も見られ、火災の早期発見に大きな役割を果たしている。設置率100%を目指し引き続きPRすることに加え、既に設置している世帯に対して電池切れへの対応等適切な維持管理についてのPRが必要となってくる。 ・防火対象物の立入検査については、目標数の100件を達成するために、立入検査を年間を通し計画的に実施する必要がある。

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	継続的なPRにより、住宅用火災警報器の設置率が上がっている。また、防火対象物の立入検査については、目標値には届いていないが実施件数は増加した。

今後の取組	・現状のPR活動に加え、既に設置している世帯に対して電池切れへの対応等適切な維持管理についてのPRが必要となるためより効果的なPRを行う。 ・防火対象物の立入検査については、今後も目標値を目指し計画に実施する。

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	住宅用火災警報器設置率	%	H21	84.9	85.2	87.4	89.1	90.0

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	火災予防の充実	主管課	消防本部

	評価	評価理由
評価及び理由	○	継続的なPRにより、住宅用火災警報器の設置率が上がっている。また、防火対象物の立入検査については、目標値には届いていないが実施件数は増加した。

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	住宅用火災警報器設置率	%	H21	84.9	85.2	87.4	89.1	90.0
	防火対象物等立入検査実施状況	件	H22	65	69	79	88	100

		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
事務事業	1	住宅用火災警報器設置促進事業	ー	ー	ー	ー	ー	ー	○	0千円	387千円	387千円	維持	ー
	2	防火対象物等立入検査	ー	ー	ー	ー	ー	ー	○	0千円	387千円	387千円	拡大	○
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　25　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	4	防災・防犯
基本施策	3	防犯・交通安全	単位施策	(1)	地域防犯体制の強化
主管課	行政課	関連課	―	総合計画書ページ番号	123
現状と課題	・防犯ネットワーク会議において、各種団体間での意見交換や活動情報を共有し犯罪防止に努めてきた。 ・市民の間でも、地域の安全は自分たちで守るという意識が高まり、各種団体や地域安全パトロール隊による地域防犯活動が活発に行われている。 ・市内の犯罪件数は減少したが、傷害や器物損壊が多く発生している状況である。今後はさらに、地域の自主防犯活動の支援強化や、犯罪情報の提供などによる防犯意識高揚のための啓発に努めるとともに、防犯灯の整備などが必要である。				

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	防犯意識の高揚を図るため、地域での犯罪撲滅活動を実施した。地域安全パトロール隊や児童を見守るスクールガードなど各種団体による自主防犯活動の育成・強化を図るため、防犯活動の支援や犯罪情報の提供等を引き続き行った。また、地域の自主防犯活動による防犯設備・備品の購入に対し、補助を行った。
今後の取組	・地域住民相互の協力関係や地域防犯活動が犯罪防止につながることから、地域や警察との連携を図る。 ・地域での防犯教室の開催や防犯関連情報の提供などを通して、地域コミュニティの重要性や防犯への意識の向上を図る。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	防犯パトロールなどの取組の支援や防犯対策に対して満足している市民の割合	%	H20	74.0	―	―	―	76.0
	犯罪発生件数	件	H21	1,229	840	732	614	1,100

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	地域コミュニティ意識の向上	主管課	行政課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	防犯意識の高揚を図るため、地域での犯罪撲滅活動を実施した。		

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	犯罪撲滅啓発活動数	回	H22	2	2	2	2	2

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	防犯推進事業（犯罪撲滅活動）	―	○	―	―	○	○	―	2,221千円	2,359千円	4,580千円	維持	○
	2													
	3													

個別施策	②	地域の自主防犯活動の育成・強化	主管課	行政課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	地域安全パトロール隊や児童を見守るスクールガードなど各種団体による自主防犯活動の育成・強化を図るため、防犯活動の支援や犯罪情報の提供等を引き続き行った。また、地域の自主防犯活動による防犯設備・備品の購入に対し、補助を行った。こども110番は地域の協力により実施している。		

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	地域安全パトロール隊数	団体	H22	51	49	49	50	51
	こども110番の家数	件	H22	185	224	300	184	300

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	防犯推進事業（防犯設備整備費等）	―	○	―	―	○	○	―	244千円	46千円	290千円	維持	―
	2													
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　25　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	4	防災・防犯
基本施策	3	防犯・交通安全	単位施策	(2)	防犯対策の環境整備
主管課	行政課	関連課	―	総合計画書ページ番号	124
現状と課題	・これまでの各行政区の現地調査による防犯灯の設置要望について、十分な対応ができているとはいえない。 ・今後、維持管理の考え方も含め、蛍光灯の防犯灯についてはLED化を推進する必要がある。 ・市民の防犯意識が高まり、地域の自主的な防犯活動が活発に行われる犯罪のない安全で安心して暮らせるまちづくりを目指す。				

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	電球等の交換や修繕などの維持管理について、区の役員や住民との連携を図りながら迅速に対応している。 広報紙等を通じて犯罪発生状況などの情報を提供するとともに、警察が犯罪情報等を情報発信するメールサービス（パトネットあいち）を周知した。市役所情報サロンで防犯物品の紹介を行っている。
今後の取組	・防犯灯については、新設や修繕時にLED化する。全ての蛍光灯の防犯灯を平成26年度中にもリースによるLED化を検討していく。 ・傷害や器物損壊が多く発生しているため、防犯グッズの紹介等により防犯対策の必要性を啓発し、防犯意識の向上を図る。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	防犯灯設置数	基	H21	3,034	3,104	3,133	3,163	3,244

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	防犯灯の整備	主管課	行政課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	電球等の交換や修繕などの維持管理について、区の役員や住民との連携を図りながら迅速に対応している。		

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	防犯灯設置数	基	H21	3,034	3,104	3,133	3,163	3,244

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	防犯灯管理事業	―	―	○	○	○	―	―	26,565千円	464千円	27,029千円	維持	―
	2	防犯灯設置事業	―	○	○	○	○	―	―	2,123千円	464千円	2,587千円	維持	○
	3													

個別施策	②	犯罪情報等の提供の充実	主管課	行政課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	広報紙等を通じて犯罪発生状況などの情報を提供するとともに、警察が犯罪情報等を情報発信するメールサービス（パトネットあいち）を周知した。市役所情報サロンで防犯物品の紹介を行っている。		

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	広報紙掲載（パトネットあいちを含む）	回	H22	4	5	4	4	6

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	広報紙掲載事務	―	―	―	―	―	―	○	0千円	19千円	19千円	維持	―
	2													
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　25　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	4	防災・防犯
基本施策	3	防犯・交通安全	単位施策	(3)	交通安全意識の高揚
主管課	行政課	関連課	―	総合計画書ページ番号	124
現状と課題	・高齢化の進展に伴い高齢者の交通事故が増加傾向にあることから、日常生活の中で安全・安心を確保するため、交通安全対策が重要な課題となっている。 ・交通事故から交通弱者といわれる子どもや高齢者を守るため、警察との連携による交通安全教室の開催などを通じて交通安全に対する意識を高めることが必要である。 ・交通事故防止に対しては、ガードレールやカーブミラーの設置など、安全な交通環境の整備を推進することも必要である。 ・自転車の運転マナーやモラルの低下が原因となる交通事故を防ぐため、安全運転に対する啓発を行うことが必要である。 ・自転車が係わる事故では高額な補償が目立つため、道路交通法の周知啓発や自転車運転の指導を行うことが必要である。 今後も「交通事故ゼロ」をめざし、交通安全意識の向上を図っていく必要がある。				

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	幼児・児童・高齢者を対象に安全教室を行った。交通安全推進協議会による街頭指導や各種交通安全団体との連携による啓発活動の支援を行った。児童への交通安全啓発活動に対して、交通ボランティア等と連携・支援を行っている。
今後の取組	・交通安全意識を育てるため、幼稚園、保育園、老人クラブ等を対象に交通安全教室等を実施していく。 ・交通安全啓発のため、交通安全推進協議会による街頭指導を行う。 ・交通安全母の会、西部ぞうさんクラブ、岩倉市五条川交通少年団等による啓発活動の支援を行う。 ・児童への交通安全啓発活動に対して、交通ボランティア等と連携・支援を行う。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	交通安全教室参加者数	人	H21	3,302	2,651	2,639	2,895	3,400

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策	①	交通安全教育・交通安全啓発事業の充実	主管課	行政課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	幼稚園・保育園での交通安全教室の開催により、幼児の交通安全意識を育てるとともに、児童・高齢者には、より実践的な交通安全教育を行った。また、交通安全推進協議会による街頭指導や各種交通安全団体との連携による啓発活動の支援を行った。		

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	交通安全教室参加者数	人	H21	3,302	2,651	2,639	2,895	3,400

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	交通安全事業	―	○	―	―	○	○	―	2,038千円	7,288千円	9,326千円	維持	○
	2													
	3													

個別施策	②	交通ボランティア等の自主活動の育成・支援	主管課	行政課
評価及び理由	評価	評価理由		
	○	通学路における児童の登校・下校時にPTA等により、地域ぐるみでスクールガードが設置されている。児童への交通安全啓発活動に対して、交通ボランティア等と連携・支援を行っている。		

指標情報	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
	交通ボランティア団体数	団体	H22	8	8	8	8	8

事務事業		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
	1	交通安全事業	―	○	―	―	○	○	―	2,038千円	7,288千円	9,326千円	維持	―
	2													
	3													

単位施策評価シート（平成２５年度実施施策）

１　単位施策の情報

【評価日】 H26　年　4　月　28　日

章	2	自然と調和した安全でうるおいのあるまち	節	4	防災・防犯
基本施策	3	防犯・交通安全	単位施策	(4)	交通安全環境の整備
主管課	都市整備課	関連課	―	総合計画書ページ番号	125
現状と課題	・交通事故減少のためには、カーブミラー、ガードレール、区画線等の交通安全施設の整備が必要であり、計画的に整備している。 ・交通事故防止にもつながるため、道路通行を阻害する放置車両等の対策の強化や路上駐車・迷惑駐車に対する警察との緊密な連携による対応が求められている。				

２　単位施策の評価と今後の取組

	評価	評価理由
評価及び理由	○	通学路における安全点検・安全対策や交通安全施設の整備等は継続的に取り組んでいる。放置自動車の処理台数は減少している。
今後の取組	・安全・安心な交通環境を確保するため、ガードレール、カーブミラーなど交通安全施設の整備を進めるとともに、破損施設の早期発見及び修繕などの適切な維持管理に努める。 ・危険箇所の交通安全施設を重点的に整備する。 ・警察との連携により、路上駐車・迷惑駐車に対するモラル向上の啓発活動や放置自動車対策に努める。	

３　単位施策の成果指標（総合計画に記載してある基本施策及び単位施策の指標を記載）

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	交通事故（人身事故）件数	件	H21	238	244	230	213	230

４　各個別施策の成果指標及び事業名、評価結果

個別施策 ①　交通安全施設の整備　　主管課：都市整備課

	評価	評価理由
評価及び理由	○	通学路における安全点検・安全対策や交通安全施設の整備等は継続的に取り組んでいる。

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	交通事故（人身事故）件数	件	H21	238	244	230	213	230

		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
事務事業	1	交通安全施設設置事業	―	○	―	○	○	―	―	25,320千円	774千円	26,094千円	維持	○
	2													
	3													

個別施策 ②　違法駐車の防止　　主管課：都市整備課

	評価	評価理由
評価及び理由	○	違法駐車については警察との連携により、迅速な対応に努めている。放置自動車の処理台数は減少している。

	指標名	単位	基準値		現状値			目標値
			年度	基準値	(H23)	(H24)	(H25)	(H27)
指標情報	放置車両処理台数	台	H21	40	28	12	8	15

		事務事業名	事業種類							投入コスト			今後の方向性	重点化
			新規	主要	マニフェスト	実計	予算	協働	その他	事業費	人件費	計		
事務事業	1	放置自動車撤去委託料及び自動車リサイクル手数料	―	―	―	―	○	―	―	0千円	70千円	70千円	維持	―
	2													
	3													